

2008年J8サミット、北海道千歳市で開催!



©UNICEF
J8サミットに参加した子どもたち

今年7月に、日本が議長国として北海道・洞爺湖で行われたG8サミット(主要国首脳会議)と平行して、子どもたちのサミット「J8(ジュニア・エイト)サミット」が7月1日～10日まで北海道千歳市で開催されました。

J8サミットとは

「J8(ジュニア・エイト)サミット」は、G8(主要国首脳会議)で取り上げられる国際問題について子どもたちの視点で話し合い、まとめた意見をG8首脳に提言する、子どもたちのサミットです。ユニセフとG8議長国などが共催し、2005年から始まりました。

子どもたちのためのサミット



今年、G8各国にアジア・アフリカなど開発途上国を加えた計15カ国から39名の子どもたちが集まりました。日本からは、ディベートなどで競う選考コンテストを勝ち抜いた、渋谷教育学園渋谷高等学校の生徒4名が日本代表として参加しました。



©UNICEF
グループごとに行われたディスカッション



©UNICEF
カルチュラル・イブニングで各国の文化を紹介。アイデアいっぱいの出し物に会場は盛り上がった。

子どもたちは、3つの議題、「気候変動」「貧困と開発」「国際保健」について活発な意見交換を行いました。プレゼンテーションをしたり、グループに分かれてディスカッションをしたり、テレビ電話で講義を受けるなど、毎日多くの作業に意欲的に取り組みました。お互いの発表に対しては、鋭い質問が飛び交い、実りある議論が戦わされました。会議の間には、複数の国内・海外メディアからインタビューを受け、J8サミットの意義や子どもの「参加する権利」の重要性を訴える広報官としても活躍しました。

7月7日には、G8サミット会場である洞爺湖で、G8国の代表と開発途上国の代表9名がG8サミットに集まった首脳陣に対し、問題解決のための提言をまとめた宣言文(千歳宣言)を提出しました。また、宣言文に加え、サミット終了後も継続して自分たちができることを考え、行動していくためのアクションプランを今回初めて作り、共に実行していくことを約束しました。

子どもたちの願いと努力が結集 「千歳宣言」と「アクションプラン」

未来の担い手である子どもたち自身によって作られた千歳宣言では、「G8首脳には若者の声を聞く義務がある」と呼びかけ、京都議定書に続く気候変動に関する国際条約の制定、子どもや若者が気候変動の問題に取り組んでいけるようにするためのピア・エデュケーション(仲間同士で教え、学び合う教育)の促進、途上国の債務の返還免除による貧困の解決、性教育など教育プログラムへの支援、など具体的な対策の実現を求めました。



©UNICEF
G8代表との対面を前に記者会見を行うJ8代表

アクションプランでは、J8代表が今後も情報を共有し、意見を交換しながら、若者主導の団体や企業の社会貢献キャンペーンなどに積極的に参加し、インターネットなどメディアを通じて自分たちの活動を報告し合い、継続して問題に取り組んでいくことを決めました。



©外務省
洞爺湖のG8サミット会場でG8首脳陣に「千歳宣言」を手渡した代表の子どもたち

発表の準備や話し合いは、深夜をまわって続くこともありましたが、J8代表は、できあがった宣言文にみな一様に自信を見せ、達成感を得たようでした。実際にG8首脳陣に

宣言文を手渡した代表も、彼らの報告を待ち望んでいた子どもたちも、宣言文を届けられたことにとっても興奮し、ともに喜びを分かち合いました。世界中の仲間とともに、子どもたちが世界の問題への解決策を提言するJ8サミット。来年は、イタリアで開催されます。

*2009年J8サミット代表選考コンテストの募集要項は、11月頃より当協会ホームページでご案内します。